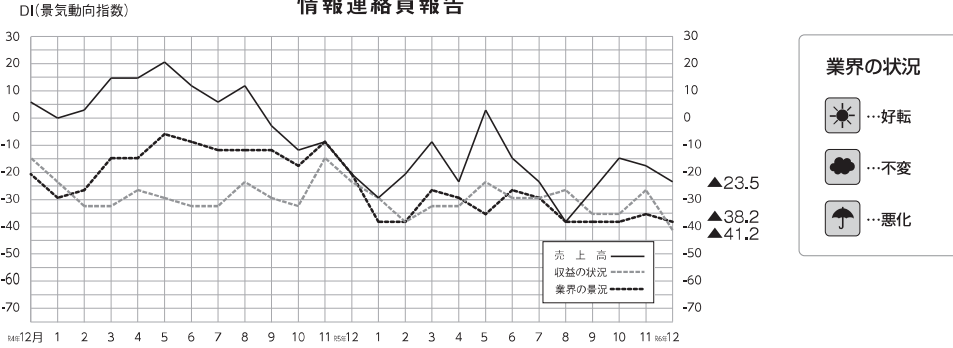


情報連絡員報告



☀️	なし
----	----

食品団地	県内外共に、昨年並の商況であった。販売価格は若干値上げできているが、コスト上昇を吸収できていない状況が続く、経営的には厳しい状況。コストダウンを計画し、製造機械の導入を検討するも、機械の価格が急上昇しており、見送りするケースが多く見られている。
テントシート	原材料の高騰について、販売価格へのスムーズな転嫁が厳しい状況が続くと思われる。組合員が1社減少した(代表者死亡による廃業)。
木製品素材生産	12月の出材量は多少の増加はあるものの、ほぼ横ばい状態であり、例年と変わらない出材状況となっている。丸太価格についても、依然として製材品の動きが鈍く、一部(スギ4m24上)では引き続き好調ではあるものの、全体的に横ばいで推移している状況である。今後の見通しは、年初めの期待感はあるものの、現状多くの動きは見込めない。
製紙(家庭紙)	紙製品全体で、販売金額、販売量、生産量が3ヶ月連続で昨年同月比を上回った。特に、先月に続き、衛生用紙全般の動きが良い。
製紙(手すき和紙)	当月は東京にて展示会を開催し、活発に活動をした結果、売上も少し上向きになった。まだまだ原材料の高騰が続き大変だが、できる範囲から動き始めたい。
刃物製造	12月も昨年とほぼ同じ売上金額。在庫は若干少なくなったが、こちらも昨年とほぼ同じ結果となった。インバウンドの関係で包丁の売れ行きは良いが、相変わらず供給が間に合わない状況が続いている。
機械団地	一部事業所では、前年に比べて価格転嫁が進む中で、原材料価格が沈静化したことで収益が増加しつつある。また、今年の新卒等採用者は何とか確保できたが、雇用情勢はますます厳しくなっているといった声がある。団地内の業況は一進一退で全体的に横ばいで推移している。
船舶製造	12月の受注・売上は低調であったが、高操業は続いている。
珊瑚装飾品製造	12月度の取引額は前年同月比80%となり、3ヶ月連続で前年を下回る結果となった。
卸団地	中山間地域の人口減の影響が形となってきた。土佐町へのmac大型店オープンにより、従来のバランスが大きく変わってくる様子(土佐町及び嶺北地域の量販店)。景気回復は感じられない。原材料・電気代・ガソリン代の値上げが続くが、販売価格に十分転嫁できない為、利益を出すのが難しくなっている。
青果卸売	入荷状況(前年同月比)について、野菜:数量91%・キロ単価135%、果実:数量73%・キロ単価136%)。組合員全体での売上高は110%を超えているが、各社別では95%前後~120%台と大きく異なる。果実のような前代未聞の大幅な入荷量の減少や、野菜・果実を通じての大幅な仕入単価アップを考えると、利益面では厳しい面があるのではとも考えられる。
生鮮魚介卸売	今月も前年同月比で売上高が減少、仕入単価が上がり売上単価も上がっているが、売上高減少というのは大変厳しい状況である。12月はカツオがオフシーズン。マグロ・ブリ等が頑張ってくれた。
各種小売(土佐市)	年末という感じがなく、人の流れもあまりない。小売店にとってなかなか厳しい1年であった。
電気機械器具小売	全商品平均で48.4%。省エネエコキュート前年比112%、ドラム洗濯乾燥機101%、大型冷蔵庫101%、4K8Kテレビ96%、エアコン95%であった。

中古自動車小売	販売台数の減少で厳しい状況。市場相場は安定しているが、徐々に上昇傾向にあることも予想されるので、在庫確保の強化をしている。
商店街(高知市)	駐車場状況について、利用台数は前年の98.2%(612台減)、料金収入は前年の99.7%(29千円減)。12月13日(金)より東洋電化中央公園で3回目となる「クリスマスマーケット」が開催され、初日より限定商品に行列ができるなど最終日の25日(水)まで若い世代を中心に賑わいがあった。帯屋町筋商店街では恒例の歳末感謝セールを12月31日(火)まで開催した。
商店街(四万十市)	年末は忘年会等で賑わったが、人手不足は業種を超えて続いている問題である。いちじよこさん市場が開店した後に「みつば商店」が開店。さらに京町の角に皮膚科が開院する予定。市民にとっては明るいニュースである。
旅行業	組合クーポン売上前年同月対比45%、全旅クーポン合算前年同月対比116%。組合クーポン売上は依然として苦戦しているが、12月末の総売上が、前年総売上を上回っている。
IT事業	売上は前年同月比で先月同様に20%増となり、3ヶ月連続で前年比を上回る結果となっている。毎月の継続案件に加え、各部門でも増加傾向が続いているようだ。物価高の影響は現時点では売上には見られないようだが、人件費の高騰を考えると、単価の見直しを検討する必要があるだろう。一方、設備投資などの大型案件は、景気後退による買い控えの影響が、今のところ動きが少ないようだ。また、組合による共同受注事業については、青年部を中心に営業強化を模索しているが、軌道に乗るにはまだ時間がかかりそうだ。引き続き、年度末に向けた補助金活用や設備投資需要の増加に期待したい。
電気工事	組合員の施工する電力引込線工事量は、前年同月比84.8%となった。高知中央・安芸・須崎・窪川地区で増加が見られたもののその他の地区は減少した。
タクシー	実働1日1車当りの前年同月比運送収入:106.4%、輸送回数:105.9%、実働率:52.8%。今年は、日本版ライドシェア(自家用車活用事業)が全国的に展開、地域交通の「担い手」や「移動の足」不足解消のため高知市でも数社が取り組んだが、実際の稼働は数回に終わった。

酒類製造	酒造り無形文化遺産登録!世界のコンテストにおける土佐酒の受賞ラッシュ!ということで12月に号外を出し、振る舞い酒等のイベントを実施したが、12月の実績においては効果にまだつながっていない状況で昨年度に届かなかった。引き続き土佐酒のレベルの高さを国内外に発信したい。
製材	建築需要は低調である一方、資材価格等は上昇しており、収益は厳しい。
建具	個人住宅、公共工事に少なかった。12月に多い障子等の張り替え工事も少なかった。
印刷	先月に引き続き当月も売上減、操業度低下、県外需要は昨年を維持しているが、県内需要が大幅に低下、総じて厳しい状況が続いている。原材料の値上げも来年1月後半から予定され益々状況悪化が懸念される。
生コンクリート製造	12月度の全組合員の出荷量は、対前年比97.2%であった。また、4月からの累計出荷量は、対前年比95.4%であった。地域的には、東部、嶺北、中央・県央協組が増加傾向であるが、中部・高幡と幡多地区が減少傾向にある。
コンクリート製品	対前年同月比89.4%。12月も例年よりは少ない状況が続いている。補正予算の早期発注に期待する。
ガソリンスタンド	激変緩和措置の補助額が減額された19日以降の仕切り価格はサウジアラビアの調整金の変動などを反映して上昇している。一方、12月初めから徐々に下がり始めた累計補助額は19日を境に再び増えて12月末には15.0円/ℓとなっている。1月には再びの減額が控えており、市況はまだまだ値上がり様子である。早く戦争を終わらせて安定価格を望む。
商店街(安芸市)	毎年恒例の歳末大売出しを実施。安芸市中心商店街等振興計画から3年が経ち、来年度から5年計画に向けてワークショップが行われた。
旅館・ホテル	11月までとは状況が変わり、予約受付状況が悪化している。12月以降の冬場は昨年実績を割り込む見込み。今後も新規ホテルの参入が予定されており、閑散期の集客対策を一層講じないと経営への影響が出てくることを危惧している。
飲食店	売上高は3ヶ月連続で前年同月を下回った。当月の下げ幅は大きく前年度比で1割減。コロナ禍以前の売上比較は約8~9割。集客は少なく県の西部で特に減少している。選挙や寒波など集客を下げる要因はいくつかあったが、そもそも物価高により県内の消費者の購買意欲が相対下がり、集客が覚束ない。前年度同月比に比べて物価は高騰。光熱費・仕入れ価格・人件費ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
クリーニング	物価高に対する節約志向が強くなったせいか、ホームクリーニング需要が減少。年末の駆け込み需要も少ない。衣類のカジュアル化も一段と進んだと思われる。リネンは堅調。エネルギー価格、原材料価格は高止まりで人件費も増え収益は減少している。
一般土木建築工事	令和6年12月分の県下生コンクリート総出荷量は、前年比97.0%、前年同月比97.2%となっているが、前年同月累計比では、95.4%と依然低調。そのうち共同販売事業に係る出荷量は累計157207.30m ³ で全体の36.79%と低調で危機的レベルにある。災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事については継続しているが、高速道路の整備以外に大型工事が見込めない状況。生コンクリート販売単価については、骨材他あらゆるものが高騰しており、今年1月契約分より値上げ実施に向けて動いており、動向が注目される。高知市の組合再編は1月16日に発注総会の開催予定となっているが、すんなりと事が運ぶとは想定しにくい状況にある。
一般貨物自動車運送	燃料価格は、補助金が段階的に削減されるのに伴い店頭価格が7円程度値上げとなったことから、月決め価格も1円数十銭の値上げとなった。12月の繁忙期ではあるが荷動きは鈍く感じられた。また日繰りの関係で年末年始の長期休みが1月にも影響するとみられる。燃料価格も更なる値上げが予定されており懸念材料となっている。